

令和7年度

「運営に関する計画」  
(最終評価)

大阪市立真田山幼稚園

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

**<真田山幼稚園教育目標>**

「明るく、たくましく、心豊かな真田山っ子を育てる」

\*健康で明るい子ども \*自分で考える子ども \*仲良く遊ぶ子ども

\*人の話を聞く子ども

**<真田山幼稚園の現状と課題>**

- 落ち着いて活動できる子どもが多い。気付いたことなどを発言することはできるが、友達と意見や思いが食い違とうまく言葉で伝え合い、自分たちで解決することが難しく、我慢してしまったり、トラブルに発展したりすることがある。
- いろいろなことに興味、関心をもつものの、同じような遊びをすることが多く、主体的に遊びを発展したり、根気よく取り組んだりする力が弱い。
- 基本的な生活習慣は身につけているものの、必要性を感じながら、自ら進んで行うことが難しい。
- クラス数が減り、園児や職員の数も減っている。そこをうまく生かしながら、今後はより、子ども同士の関わりを深めたり、職員の連携を密にしたりしていく。
- 今後の状況に応じて、子どもたちが安全に生活できるように保育や行事の内容などの見直しが必要である。

**中期目標**

**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の保護者アンケートで「安心して自分の思いを表出し、相手の思いにも気付けるようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。
- 令和7年度の保護者アンケートで「いろいろなことに自信をもって取り組むようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 令和7年度の保護者アンケートで「友達と思いを伝え合いながら、主体的に活動し、考えたり工夫したりしながら遊べるようになった」の項目で肯定的意見が80%以上になるようにする。
- 令和7年度の保護者アンケートで「自分の体を大切にし、楽しんで体を動かして遊ぶようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

- 進んで研修や研究に取り組み、保育を学び合う教師集団を育成していく。
- 令和7年度の保護者アンケートで「家庭や地域へ教育内容を分かりやすく伝えている」の項目で肯定的意見が80%以上になるようにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

**【安全・安心な教育の推進】**

**園の年度目標**

- 令和7年度の保護者アンケートで「安心して自分の思いを表出し、相手の思いにも気付けるようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。
- 令和7年度の保護者アンケートで「いろいろなことに自信をもって取り組むようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

**園の年度目標**

- 令和7年度の保護者アンケートで「友達と思いを伝え合いながら、主体的に活動し、考えたり工夫したりしながら遊べるようになった」の項目で肯定的意見が80%以上になるようにする。
- 令和7年度の保護者アンケートで「自分の体を大切にし、楽しんで体を動かして遊ぶようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

**園の年度目標**

- 進んで研修や研究に取り組み、保育を学び合う教師集団を育成していく。
- 令和7年度の保護者アンケートで「家庭や地域へ教育内容を分かりやすく伝えている」の項目で肯定的意見が80%以上になるようにする。

### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の保護者アンケートで「安心して自分の思いを表出し、相手の思いにも気付けるようになった」の項目で、肯定的意見は95%であり、中期目標を大きく上回って達成することができた。教職員が連携を取りながら子どもを援助することに努め、具体的な支援の仕方や指導方法など、学んだことを保育に生かすことができた。また、自分と友達の心と体を大切にしている指導を継続して行ったことで、自分の体に関心をもつ姿が見られるようになった。さらに5歳児は、就学前の2月にCAPプログラムを受講し、自分の心と体を守る意識を高める機会とした。これらの取り組みを通して、安心して自分の思いを出し、相手の思いにも気付けるようになる姿につながったと考える。また、日々子どもの姿や課題は変化するため、課題を共通理解しながら臨機応変に対応できるように教職員が連携を取ることの大切さを改めて学んだ。次年度の指導に生かしていきたい。
- 令和7年度末の保護者アンケートで「いろいろなことに自信をもって取り組むようになった」の項目で肯定的意見は97%であり、中期目標を大きく上回って達成することができた。子ども同士が互いに認め合う機会を日常的にもつことに加えて、異年齢で関わる機会を多く計画したことで、友達の良いところに気付いたり、自分に自信をもったりする姿につながったと考える。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の保護者アンケートで「友達と思いを伝え合いながら、主体的に活動し、考えたり工夫したりしながら遊べるようになった」の項目で肯定的意見は99%であり、中期目標を大きく上回って達成することができた。週案打ち合わせ時に、互いのクラスの実態や課題などを出し合いながら計画を立てた。また、異年齢同士で関わりをもち、刺激を受け合えるように保育環境や時間配分の見直しを続けながら保育を進めた。そうしてきたことで、興味や関心が持続し、友達と思いを伝えながら遊びを進めたり、自分なりの目標をもって主体的に遊んだり姿につながったと考える。
- 自分の体を大切に、楽しんで体を動かして遊ぶようになった」の項目で肯定的意見が100%であり、中期目標を大きく上回って達成することができた。年間を通して基本的な生活習慣が身に付けられるような保健指導を行った。また、公園を計画的に活用したり、異年齢児同士でチームをつくって活動したりする機会をつくった。さらに、ダンスや体操、遊具や道具を使う遊び、ルールのある遊びなど、いろいろな体の動きを遊びに取り入れてきたことで、楽しんで体を動かす姿につながったと考える。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 教員が進んで研修や研究に取り組み、自身の学びに生かしてきた。園内研修では、教職員が自身の保育を振り返り、互いに考えを出し合うことができたことで、資質向上につながることができた。今後、いろいろな経験年数や職種の教職員同士が意見を出し合い、どのように保育実践に生かすかを共有する機会を設け、より実践的な学びにつなげていきたい。
- 令和7年度末の保護者アンケートで「家庭や地域へ教育内容を分かりやすく伝えている」の項目で肯定的意見は96%であり、中期目標を大きく上回って達成することができた。定期的にホームページを更新し、園の教育内容を知らせた。また、家庭や地域に子どもの育ちの様子を「就学前教育カリキュラム」知徳体の視点から掲示物やドキュメンテーションにより伝えた。これらの取り組みが、家庭や地域への就学前教育内容の発信となり、目標を達成することができたと考える。今後も、時代の変化に応じて、保護者や地域により分かりやすく伝わるよう、表現を工夫し、写真を効果的に用いた情報発信を行っていきたい。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>園の年度目標</p> <p>○令和7年度の保護者アンケートで「安心して自分の思いを表出し、相手の思いにも気付けるようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。</p> <p>○令和7年度の保護者アンケートで「いろいろなことに自信をもって取り組むようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>子ども一人一人の実態や友達関係を把握し、安心できる環境づくりに取り組む。</p> <hr/> <p>指標 ・学期に1回、園内委員会を開く。</p> <p>・月1回以上、子どもたちの様子について話し合う機会をもつ。</p>	A
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>子ども一人一人がありがたの自分の自分を大切にできるようにする。</p> <hr/> <p>指標 ・教職員同士で連携し、学期に1回、心と身体を大切にできるような指導をする。</p> <p>・CAPのプログラムを受講する。（5歳児）</p>	B
<p>取組内容③【2 豊かな心の育成】</p> <p>異年齢で交流し、自信をもって活動できる環境や保育内容を工夫する。</p> <hr/> <p>指標 ・月1回以上、良いところや頑張っているところを他児と認め合う機会をもつ。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>○2月実施の保護者アンケートで「安心して自分の思いを表出し、相手の思いにも気付けるようになった」の項目で肯定的意見は95%であり、目標を達成することができた。</p> <p>○2月実施の保護者アンケートで「いろいろなことに自信をもって取り組むようになった」の項目で肯定的意見は97%であり、目標を達成することができた。</p> <p>① 学期に1回以上園内委員会を開き、指導や支援の仕方についての意見を出し合い、幼児理解に努めた。それ以外にも週1回以上、保育後にその日あった出来事などを職員間で話し合い、さらに預かり保育の様子も連携して見に行き、子ども一人一人の様子や子ども同士の関わりなどを伝達し、職員間で共通理解に努めた。また、7月と11月に巡回指導を受けた。実際の子どもの姿から、言葉がけの仕方や支援の手立てについての助言を受け、保育に活かすことができた。療育施設とも連携を図り、具体的な指導や支援の在り方を模索し、いろいろな支援の方法を試すことができた。</p> <p>② 全園児に、体の名称や働きについて知らせ、自分の体を大切にしている指導を行った。4歳児には、普段の生活の中で気持ちを言葉で伝える大切さや、言葉の使い方について考えられるような指導を行った。また、3・4歳児には、友達との距離の取り方についての指導を行った。幼児なりに分かるように、生活の具体的な状況から話をしたり、対話をしながら指導を行ったりした。自分の体に関心をもつ姿が見られるようになっているが、自分の体も相手の体も大切にしようと思えるように、継続した指導が必要</p>	

である。5歳児は、CAPのプログラムを2月24日、25日の2日間受講した。「安心・安全・自由」の権利があることや、嫌だと感じた時に伝えることの大切さを、具体的な事例を通して子どもなりに理解することができ、進学前に貴重な学びの機会となった。

- ③ 日々、保育の振り返りの時間や運動会・子どもフェスティバル・生活発表会などの行事の活動の折りに、自分や友達の良いところや頑張っているところをクラスで伝え合う機会を日常的にもつようにした。さらに、他学年同士で発表を見合い、互いに良いところを見つけて感想を伝え合う機会をつくった。友達の良さや頑張りに気付いたり、気付いたことを自分なりの言葉で相手に伝えたりする姿が見られるようになった。また、誕生会や集会で、それぞれのクラスで遊んでいるダンスや歌を紹介し合ったり縦割りのグループで園外保育や地域散歩に出かけたりなど、意図的に異年齢で関われる機会を多くつくったことで、互いに思いやりの気持ちが育ち、友達を大切にする姿につながった。

#### 次年度の改善点

- ① 配慮を要する子どもの手立てについて、模索をしながら、教職員同士で共通理解を図り、事前準備をしている。子どもの実態が日々変容することもあり、打ち合わせ通りにいかないことも多く、臨機応変な対応が必要である。また、実際に関わってみないと対応が効果的であるか分からず、教師一人一人の認識に違いがあることが事後に分かることもあった。教職員一人一人が特別支援教育についての学びを深め、子どもの実態に応じた手立てができるようにしていく。
- ② 担任と養護教諭が連携し、発達段階に応じた指導及び視覚掲示の工夫を行う。また、クラスでの課題を事前に共通理解し、どのような指導がどのような時期に必要なか、意見を出し合い、子どもの実態に応じた指導を行う。
- ③ 次年度も異年齢で交流する機会を継続的にもてるように保育計画を立て、互いの遊びを知ったり、互いの良さに気付いたりできるような保育内容を工夫する。

## 大阪市立真田山幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> <b>園の年度目標</b> ○令和7年度の保護者アンケートで「友達と想いを伝え合いながら、主体的に活動し、考えたり工夫したりしながら遊べるようになった」の項目で肯定的意見が80%以上になるようにする。 ○令和7年度の保護者アンケートで「自分の体を大切にし、楽しんで体を動かして遊ぶようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】 主体的に活動する中で、相手を思いやることのできる子どもを育てるための保育を工夫する。 ----- 指標 ・月に1回以上、いろいろな人と関わる機会をもつ。	A
取組内容②【3 幼児教育の推進と質の向上】 友達と一緒に考え合いながら遊ぶことを楽しめるような環境を工夫する。 ----- 指標 ・就学前教育カリキュラムを週案作成に活用する。 ・学期に1回、教育課程を見直す。	A
取組内容③【5 健やかな体の育成】 基本的な生活習慣を身に付けられるような指導を工夫する。 ----- 指標 ・月に1回、保健指導を行う。	B
取組内容④【5 健やかな体の育成】 楽しんで体を動かして遊べるような保育内容を工夫する。 ----- 指標 ・学期に1回、公園を活用する。 ・月に1回以上、体を動かす機会をもつ。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○2月実施の保護者アンケートで「友達と想いを伝え合いながら、主体的に活動し、考えたり工夫したりしながら遊べるようになった」の項目で肯定的意見は99%であり、目標を達成している。 ○2月実施の保護者アンケートで「自分の体を大切にし、楽しんで体を動かして遊ぶようになった」の項目で肯定的意見は100%であり、目標を達成している。 ① 毎月、園開放に参加している地域の未就園児や地域の子育てサークルに参加している親子と関わって遊んだり、歌や手遊びなどを発表したりした。また、年に2回、地域の高齢者食事サービスに参加し、2月に真田山小学校の1年生と5歳児が交流する機会を設けた。さらに、天王寺区内の幼稚園児と一緒に、万博や区民まつり、大阪市立幼稚園音楽会で歌声披露をし、味原幼稚園と味原保育園児とは5歳児同士がふれあって遊ぶ機会を設けた。地域のいろいろな人との関わりを通して、相手を思いやって関わる姿が見られた。また、喜んでもらったり、拍手をもらったりする経験は、自信をもつことにつながった。5歳児は1年生や地域の同年齢の友達との関わりを通して、憧れの気持ちを持ち、進学への期待が高まった。興味や関心をもったことを存分に楽しめるように、リズム室やみんなの部屋の環境を整え、継続して取り組めるようにしたことから、クラスの友達と刺激を受け合い、

自分なりの目標をもって主体的に遊んだり、新たに好きな遊びを見つけたりするなどの育ちが見られた。

- ② 週に1回、担任が週案打ち合わせを行った。その際、クラスの実態や遊びの流れを踏まえた上で、就学前教育カリキュラムを活用し、ねらいや働きかけについて、いろいろな経験の担任同士が互いに意見を出し合いながら考えるようにした。運動会や子どもフェスティバル、生活発表会に向けての取り組みでは、それぞれのクラスの育ちを見通して題材を検討し、遊びを進めていくことができた。その結果、どの学年の子どもも楽しんで参加することができた。体を動かす遊びやかいたりつくったりする遊び、お話のごっこ遊びについても楽しみながら一人一人の育ちが見られた。以上の遊び、活動、行事から学期に1回、教育課程を見直し、行事のねらいを改めて考え直したり、季節に応じた自然や作物を保育に活かせるように環境を整えたりした。
- ③ 月1回、各学年に対して保健指導を行った。指導時にクイズ形式を取り入れながら、子どもが興味をもてるように工夫した。また、掲示物を作成し、視覚的に理解しやすい指導に努めた。3・4歳児への歯みがき指導は、繰り返し行うことで、習慣化する様子が見られた。また、4・5歳児への感染症予防の指導や栄養指導では、子どもが実際に触ったり試したりできるような教材を取り入れることにより興味が高まり、自分の生活と結び付けて理解する姿につながった。
- ④ 1学期は鶴見緑地公園、2学期は大阪城公園、天王寺動物園へと園外保育に出かけ、真田山グラウンドで凧揚げを行った。また、日常の保育の中で、近隣の公園に散歩に出かける機会を1学期は1回、2学期は3回、3学期は2回設けた。園内では経験できない遊具に触れることでいろいろな体を動かす遊びを楽しみ遊びながら、公園遊具の使い方の約束を知らせることができた。また、異年齢児同士で手をつないで歩くようにしたことで、互いに刺激を受け合い、長い距離をしっかりと歩けるようになってきており、体力がついてきた。全園児と一緒にダンスや体操をすることで、音楽に合わせて体を動かすことを楽しみ、自信をもって踊ったり、異年齢同士の刺激を受けあったりすることができた。いろいろな体を動かす遊びができるように、サーキットやトランポリン、鉄棒や竹馬などに取り組みめる環境を整えた。自らやりたい遊びを見つけて用具を準備し、目標をもって体を動かす遊びに挑戦する姿が見られるようになってきた。また、5歳児が園庭でドッジボールやサッカーに取り組む中で、4歳児が遊びに自然に加わり、ルールのある遊びを理解しながら、走る・投げる・蹴るなどの動きを楽しむ姿が見られるようになった。

#### 次年度の改善点

- ① 次年度も教職員同士で連携し、地域の方や学校園、未就園児の子どもたちなど、いろいろな人との関わりをもてるように保育を計画する。その際、自信につながるように働きかけたり、相手の思いに気付かせたりしていく。
- ② 週案打ち合わせ時に、より具体的な子どもの姿から次週の保育の計画を立てることができるよう、全教職員と連携を深めていく。
- ③ 養護教諭と担任が連携し、タイミングを相談しながら保健指導を行っていく。また、指導内容をより日常生活につなげられるよう、家庭でも実践しやすい言葉かけや関わり方について工夫し、園と家庭が連携できるようにしていく。
- ④ 計画的に公園を活用し、体力向上に努める。そのために、ねらいをもって出かける時期と場所を見直した上で年間計画を立てる。また、発達段階に応じた環境や働きかけを工夫し、異年齢児同士で刺激が受けあえるように取り組んでいきたい。

(大阪市立真田山幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート))

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b> <b>園の年度目標</b> ○進んで研修や研究に取り組み、保育を学び合う教師集団を育成していく。 ○令和7年度の保護者アンケートで「家庭や地域へ教育内容を分かりやすく伝えている」の項目で肯定的意見が80%以上になるようにする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 研修、研究に進んで取り組み、一人一人の資質向上を図る。 指標 ・年3回以上、園内研修を実施する。 ・研修した内容について伝え合う。	B
取組内容②【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 家庭や地域へ教育内容を発信する。 指標 ・週1回以上、ホームページを更新する。 ・学期に1回以上、教育内容を分かりやすくまとめて、様々な方法で発信する。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○進んで研修や研究に取り組み、自身の学びに生かすことができた。 ○2月実施の保護者アンケートで「家庭や地域へ教育内容を分かりやすく伝えている」の項目で肯定的意見は96%であり、目標を達成している。	
① 実践記録や、ドキュメンテーションを作成し、子どもの姿から遊びの中の学びについて分析した。園内研修を5回実施し、教職員間で保育を振り返る機会をもった。園内研修支援や指導要請の機会では、具体的な改善点や教職員の学びの機会をもつことができた。また、各々の教職員が研修に参加し、内容を他の職員に資料を回覧し、学びを共有した。	
② ホームページに日々の遊びや行事での子どもの姿や未就園児活動のお知らせを載せ、保護者や地域に園の教育内容を知らせている。12月にホームページがリニューアルし、写真加工などがしやすくなったため、どの教職員も記事の投稿に携われるようにしており、週1回以上更新することができている。	
2か月に1回、安全の日に各クラスの保育の様子を写真とともに園内掲示し、「就学前教育カリキュラム」知徳体の視点からの子どもの育ちについて保護者に伝えた。また、2学期始業式、3学期始業式では、学期ごとの遊びの流れと子どもの姿をまとめて、学年ごとにドキュメンテーションを作成し、保護者にプレゼンテーションした。園と家庭、地域が一緒に子どもの育成を行うことを共有するねらいを発信することができた。	
次年度の改善点	
①次年度も、各々の教職員が自身の資質向上のため、積極的に研修に参加する。また、資料だけではなく、会議の場で内容を伝え合い、保育実践にどのように生かすかを共有する機会を設け、より実践的な学びにつなげていきたい。	
②次年度もホームページの更新を行い、教員全員が記事作成に携われるようにしていく。また、保護者により分かりやすく伝わるよう、表現を工夫し、写真を効果的に用いた情報発信を行う。	